



きこえにくい子を指導する
方に知ってほしいこと

基礎コース

長崎県立ろう学校
自立活動部

12月発行



英語の授業で配慮すること

英語の学習は「耳で聞く」「耳から聞いて口に出す」「読んだものを声に出す」という活動の占める割合が高く、難聴の子供にとっては、苦手なことが多いです。この問題の解決は、日頃の日本語でのコミュニケーション実践の成果の上にしか築くことができません。日頃のやり取りの中で子供の実態をつかみ「こうすればわかる、できる」という情報保障や手立てを指導者が理解して、それを基に英語の学習時の情報保障や手立てを考えていきましょう。



1 英語に苦手意識をもたせないために

英語の学習でも「聞き取れない」「どこを読んでいるのかわからない」と思わせない工夫が大切です。そのために子供の実態に合わせて、確実に情報が入る方法を使いましょう。例えば次のような方法があります。

- ・ ロジャーマイクの活用
- ・ 会話の際は顔と口元を見せる
- ・ 言葉を精選して簡潔にゆっくりめに、はっきりと話す
- ・ デジタル教科書や板書など視覚情報を多用する
- ・ 授業の流れをある程度固定して見通しをもたせるなど

これらを英語担当教員と共通理解しながら子供に有効な様々な手立てを複合的に用いながら行いましょう。

ロジャーマイクはテレビやパソコンに直接つなげることができますので、騒音の中でもクリアーに音声を届けることができます（詳しくは、『みみより vol. 1 2 「補聴援助システムの便利な使い方」』を参照）。また、何を学習するのか予告や予習を促しておく、子供自身が主体的に行える活動も増え、支援を減らすこともできます。



2 ローマ字（ヘボン式）の学習を生かそう

日本語の発音が難しい子供に正しい英語の発音を求めてしまうと、声を出すことに抵抗を感じる可能性があります。まずは、英語を話しているということを楽しめるように、ローマ字の学習を生かし、英単語をローマ字読みさせてみるのも一つの方法です。そのためにもローマ字はしっかり身に付けさせましょう。

ヘボン式			
し	shi	しゃ、しゅ、しょ	sha, shu, sho
じ	ji	じゃ、じゅ、じょ	ja, ju, jo
ち	chi	ちゃ、ちゅ、ちょ	cha, chu, cho
ぢ	ji	ぢゃ、ぢゅ、ぢょ	ja, ju, jo
つ	tsu	づ	zu
ふ	fu	を	o
ん	n/m [b、m、pの前はmを使う]		

3 「フォニックス」を取り入れよう

話すことや英語が好きなお子様にはフォニックス指導を授業に取り入れるのも非常に良いと考えられます（詳しく知りたい方はろう学校へお尋ねください）。フォニックス指導は日本語の発音指導の方法と共通している部分があり、口形や舌の位置を確認し、意識させることで英語の発音が上手になります。発音指導にプラスしてアクセントに注意させたり、文末の上がり下がり意識させたり、単語と単語の間を区切らずに強弱をつけて英文を読んだりさせましょう。スキット（会話表現）の単元の場合は、実際にその場面を設定し、英語を話していると実感できるような活動に取り組むと効果的です。

フォニックスとは、英単語の発音を学ぶ方法のひとつ。簡単に言うと、英語を母国語とする子供たちが学ぶつづり字と発音の関係を示すルールです。



4 辞書(紙)を活用しよう

辞書と言えば、「分からない単語の意味を調べる」と考えがちですが、「発音を確認する」道具として活用できます。まず、ノートには、書き方を例示させましょう。はじめは、体裁を整えたプリントをノートに貼って記入させましょう。読み方を確認する場合は、辞書を引き、発音を確認して綴りを書き、ルビを振ります。その際、アクセントやイントネーションは目に見える表示（太文字、矢印、色分けなど）にすると分かりやすいです。ただ、書くだけで終わってしまわないように、スペルも読みも声に出して確認しながら覚えることが大切です。

	↙アクセント	
ré-al-ly	[rí ə li	リアリ]
	↑	↑
	発音記号	カタカナの発音
		日本語の意味

本人に苦手意識がある場合は、発音の明瞭さ、流暢さは求めず、「それらしく言おうとしている」「何と読むかが分かっている」という様子を評価しましょう。ただし、リエゾン（リンキングやリダクション）などの「音のルール」（例えば、Would you like~?が「ウジューライク」になることなど）は教えるようにしましょう。

5 文法の理解や定着を目指そう

英語の一文が長くなると、どの順番で訳していくか（逆も同じ）なかなか難しいものです。訳しやすいように動詞、前置詞などで色分けするなど、本文などへ書き込むときのルールを決めておくことが大切です。

また、助詞の誤用が見られる生徒には、本文の学習終了後には、正しい教科書訳を提示し、自分の訳と比較させて助詞の確認をすると日本語の正しい表現につながります。

 	赤口	動詞
 	赤二重口	疑問詞
 	青口	前置詞
 	青二重口	接続詞（文と文をつなぐ言葉）
—	赤線	文法として大切な箇所
—	青線	連語 イディオム
Ⓢ	青○	複数形の S
Ⓢ	赤○	三単現の S

（参考：ろう学校中学部ルール）

6 家庭学習の習慣化

小学生は、授業に見通しをもって主体的に活動できることを目指して、単語ややり取りに使う会話文の発音や意味を確認しておきましょう。国語の音読のように、家族に聞いてもらったり、実際にやり取り練習をしたりすると効果的です。

中高生で家庭学習の習慣化と単語・文法力の定着を目指すには、家庭学習ノートを毎日提出させ、チェックをすることが有効です。家庭学習ノートでは、基本的には覚えたい単語や文章の練習をすると良いでしょう。毎回同じような単語を練習する生徒には、授業で学習した単語の中で、教師が最低これだけは覚えておいてほしいと思う単語をノートに書いて練習させましょう。ノートのまとめは、見開き1ページを使い、左側に新出単語と意味、基本例文を書き、右側に教科書の本文を書くようにすると良いでしょう。授業では、何度も同じ質問を繰り返し、復習となる時間を入れることで徐々に単語や文法事項の定着が見られるようになっていきます。

生徒の学習意欲を高めさせることや目標をもたせるために、生徒の実態に応じて英語検定に挑戦させることも良いと思います。

7 あったら便利なもの

○デジタル教科書（おすすめ！）

（フラッシュカード、本文音読の追いかけ表示、音声のスピード調整、問題の答え合わせ…教師も生徒も助かります。きこえる生徒もきこえにくい生徒も助かります。）

○パワーポイント教材

（リスニング代替問題は、一度作っておくと他の場面でも活用できます。詳しくはろう学校にお尋ねください。）

○教科書本文の拡大資料（模造紙大）

（前回までに書き込んだものが残っていると、内容を思い出す手掛かりになります。）

○ マークはお店の売り場で職場体験をしてきました。

Lisa: How was your work experience?
どうでしたか

Mark: It was great. The staff members treated me very kindly.
[id]

Lisa: Good for you. So what did you do?
それで

Mark: I placed many goods on the shelves.
[t] 〜の上 a shelf two shelves

I learned how to do it well.
[d] どのようにする

But I dropped a bottle of juice on the floor by mistake.
[t] ジュース1本 three bottles of juice ジュース3本 〜で

Lisa: Oh, no!

Mark: No one blamed me, but I couldn't forget about it all day.
[d] 誰も〜ない could not 一日中

Lisa: It's OK. We all make mistakes.
ミスをする

（教科書本文拡大資料例）

参考文献：『難聴児・生徒理解ハンドブック』通常の学級で教える先生へ
 白井一夫・小網輝夫・佐藤弥生[編著]（学苑社）

『Sunshine 3 SUNSHINE ENGLISH COURSE』（開隆堂出版）